

成長ついでにこれもありがやう

快晴の日曜日、今年度の資源回収が行われました。私は土岐小学校に向き、資源の積み込みを手伝いました。土岐小学校に足を運んだ中学生は、精力的に手伝いに取り組んでいました。資源を運んできた車に駆け足で近寄ったり、荷台の上に乗って大人顔負けの活躍で荷物の整理をしたりする姿がありました。恐らく、他の三つの小学校においても、北中生の同様の姿が見られたことでしょう。

それぞれの小学校に生徒が足を運んで活躍することに大きな意味がある、と私は改めて思いました。

「中学生になると、たくましくなりますね。体も大きくなりますが、小学校で教えた子がこうやって積極的に動いている姿を見ると、本当にうれしくなってきます！」

土岐小学校のある職員が、とてもうれしそうに私に話しかけてくれました。毎日毎日会っていると、生徒がどれだけ成長しているかはなかなかわからないものです。

しかし、久しぶりに会うと、その成長を実感します。大きく強くなった体の成長、動くことを面倒くさがらない行動の成長、そして、貢献しようとする心の成長、これらが小学校の職員の大きな喜びだろうと、私も同業者として思います。実は、同じような喜びを、私も感じながら荷物の積み込みに取り組んでいました。

「先生、お久しぶりです！○○○です。先生、全然変わってないですね。」

「おっ、久しぶり！立派な大人になったね。その分、私は年を取ったよ。子どもは小学生かい？」

「はい、六年生です。で、来年、中学校に行きます。よろしくお願いします！」

昔の教え子との再会がありました。中学時代以来ですので、面影は残っていても、雰囲気はすっかり大人です。家庭もち、子育ての真っ只中の素敵な父親になっていたので、名乗り出るまで、私は気付きませんでした。落ち着いた外見だけではなく、出会う人と交わす言葉もすっかり大人でした。小学校の職員と同じような感動を私も味わっていたのです。

教師という職業の醍醐味ですね。叱ったり悩んだり、時には一緒に喜び合ったりした生徒が、一人前の大人、親になった姿を見るのはこの上ない喜びです。私のために成長したわけではないのですが、何だか「成長してくれてありがとう」と言いたい気分になりました。

(十一月三十日 記)

